

## 昨日の午後からアラスカ大学で 英語による講義受講

本校の海外科学セミナーの目的の一つは、アラスカ大学フェアバンクス校国際北極圏研究センターでの英語による地球物理学関連講義の受講です。

本校のアラスカ大学での講義はオーロラ研究の世界的研究者である赤祖父俊一アラスカ大学名誉教授にコーディネートしていただいています。生徒は、まず研修を受ける国際北極圏研究センタービルに到着すると、その施設が「SYUN-ICHI AKASOFU BUILDING」と命名されていることに驚きます。赤祖父先生の業績がいかに偉大なものかが伺われ、緊張した面持ちで講義室に入ったようです。



国際北極圏研究センター玄関

昨日は、赤祖父先生の長年の友人で、元 the U. S. Fish and Wildlife Service の研究者である Mr. Mauer 氏によるアラスカの生物についての講義、そして、赤祖父俊一先生によるオーロラの原理についての講義、そしてアラスカ地震観測センターの研究者である Dr. Suleimani 氏による津波についての講義を受講しました。

英語科横田先生のお話では、生徒諸君が意欲的に講義に参加し、先生方にも積極的に質問している姿は頼もしく見えたそうです。生徒の感想にも、「大学の授業は先生方が質問に丁寧に答えてくださったので、よくわかりました」との答えがありました。

今日は、アラスカ大学で Dr. Yoshikawa 氏による「永久凍土」の講義を受講後、フェアバンクス

郊外ある永久凍土トンネルを見学する予定です。

この永久凍土トンネルはアメリカ陸軍の the U. S. Army's Cold Regions Research and Engineering Laboratory が管理運営している「the CRREL Permafrost Tunnel Research Facility」と呼ばれる施設です。

米軍基地の中にあるので、見学・研修に当たり、Dr. Yoshikawa 氏はじめ、国際北極圏研究センターの所員の皆さんのお骨折りを頂き、見学することができました。

4万年前の地層がそのまま凍結した状態となっており、内部では、当時の生き物や空気を閉じ込めた氷や当時のバイソンやマンモスの骨などを観察することができます。研修の報告は次回の通信で行う予定です。



講義の様子(2014.3)です。今年もこんな風に真剣に講義を受講しているのでしょうか。左下の方が赤祖父先生



The CRREL Permafrost Tunnel Research Facility  
The photo by suwa-seiryu high school student

## 海外の食文化を楽しむ

各自で自炊生活を送っていることは先日お伝えした通り。

近くのスーパーマーケットで食材を購入しているようですが、なんだかとてもカラフルな料理になってしまい、ちょっと諏訪人には食欲が・・・、だそうです。



写真は1、M君二人の夕食。右はアメリカらしいシリアルとのこと

